ごく普通の世界のお話です

あるところに家族が住んでいました。
ごく普通いうものがあるのならば、何が普通なのか。
　仲良く暮らしている家族が普通なのか、それともこちらが普通なのか。
普通なのが何が普通なのか、そんな良くわからない世界のお話。

その家族は五人で構成されていました。
母、父、長男、二男、長女。
一番上は長男、二番目は二男、三番目は長女。
　父は仕事へ、母は家庭を守る。
けれど長男は学校へ行く年齢なのに、いきませんでした。
何が原因かわからないまま、両親は彼を学校へ行かせようと、怒り、時に殴りつけました。
二男は無難に高校へ進み、長女は長男のストレスをぶつけられ、彼女まで学校に行かなくなってしまいました。
帰ってくればお金を盗まれ、二男は見ても見ぬふりを。
お金を入れる場所に泣かぎを描ければ、彼女は御兄さんから『鍵をかけるな』と理不尽に殴られました。
　顔を何度も殴られ、ときには首を絞められ。
ある日彼女は言いました。
「妹なら殴ったっていいの？」
兄はいいました。
「そうだ」

それから時間はたち、二男は一人暮らしをし、長男はある日突然亡くなりました。
大人になった長女は、仕事もままならず、小さな病院へ行きました。
根暗だった彼女は別の病院からうつ病だと診断されました。
　寝付けないなら薬を、そうして薬をもらううち、薬漬けになっていたことに気付いたのは、別の内科の看護師の一言でした。
「お嬢さん、こんな量を？…つらいんですね」

悪化していきました。
　こんなにうつ病が続くならとちゃんと大きな病院に行くことにしました。
治ると喜んで行った時、先生はいいました。
「あなたはうつ病ではありません。虐待による、周囲と合わせられなくなってしまった障害です」

だれがおかしい？
なにがおかしい？
原因は兄だというのに、責めるべき本人はもういない。

兄が死んだのなら、だれを責めればいいのだろう。
彼女は泣きました。そして一つの答えにたどり着きました。
兄が暴力を振るった原因は、両親にあるのだと。

彼女は暴れだしました。兄を罵倒しました。
けれど両親は、長男はもう死んだのだと相手にしません。

ならなぜこうなったの？
二男は一人暮らし、父と母は疲れ果て、彼女はどうしようもなく恨みをぶつける場所を探しました。
「妹なら殴ったっていい」という兄の言葉を思い出しました。
そこで彼女も考えが変わりました。
彼女は鉄の棒を持っていいます。
「私が殴られたのだから、私が殴ったっていいじゃない」

ごく普通の家庭とは何を指すのでしょうか。
　ごく普通の女の子とは何のことを指すのでしょうか。
ごく普通の家庭は、もしかしたら今はこの家庭のことを指すのかもしれません。

終